

「第56回 松山まつり onWeb」 募集要項

1. 内 容

昨年に引き続き、コロナ禍の中でも、市民や連・チームの踊り手が笑顔で楽しめる場を提供するため、インターネット上で、市民や参加連がおどりの動画を投稿して閲覧できる仕組みを構築するほか、ホームページ上で投票を行うコンテストを開催します。

本来、夏祭りは「疫病退散」「安息の祈り」を伝統としています。テーマは、夏祭りの伝統的な意義に返り、コロナに負けないように「笑顔」をつなぎます。また、大変な状況にある方が多いため、野球拳おどりの原点である「応援」の想いを発信し、社会全体の安息を祈ります。「笑顔」「応援」をテーマに、社会に笑顔があふれるような、野球拳おどりを投稿していただきます。

下記2部門にて動画の投稿をお願いします。部門ごとに、視聴者投票によるオーディエンス賞を選定します。また、投稿された動画の中から、各部門視聴者投票数の上位20位までの動画について、審査員による審査を実施し、ベストムービーを選定します。

【部門①：連・チーム部門】

過去の参加連・チームなどによるおどり動画（5分以内）部門。過去の出場動画の編集、新たに撮影した動画の編集や新たな連・チームでの投稿も可能です。今回、新たに撮影する場合は、1フレーム1人を原則とし、ソフト等でつなげるのは可。実行委員会が認定した独自のアレンジ曲も使用できます。

【部門②：個人部門】

どなたでも構いません。個人で1分以内のおどり動画を1本制作・編集して投稿ください。
「第56回松山まつり onWebにご参加いただいた皆さま」として動画を公開していきます。

両部門とも動画内にコメントやボード掲出等により「応援メッセージ」を入れてください。

2. 動画募集期間 2021年7月1日（木）～ 8月17日（火）

3. 動画公開開始 2021年8月2日（月）～

4. スケジュール ※両部門共通

6月10日（木）	イベント告知（WEB・メディア等）。
7月 1日（木）	本サイトオープン。 <u>動画投稿受付開始。</u> （動画は8/2まで公開しない）
8月 2日（月）	<u>投稿動画公開開始。</u>
8月17日（火）	投稿動画受付〆切。
8月18日（水）	視聴者投票開始。（8月24日まで投票受付）
8月25日（水）～	審査員による審査開始。（各部門投票数上位20動画）
8月31日（火）	結果発表。
9月上旬	表彰式。（開催予定）

5. 審査要領 別紙参照

「第56回 松山まつり onWeb」 注意事項

1. 参加条件について ※部門①：連・チーム、②：個人に共通

- ・「応援」「笑顔」をテーマとした「野球拳おどり」を踊っている動画を募集する。
- ・松山まつり初参加の方や、年齢、住所問わず、誰でも参加可能とする。

2. 動画投稿のルールについて

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、必ず1カメラ1名で踊る動画を投稿すること。
(過去の動画を使用する場合のみ2名以上も可とする。)
- ・音源は、松山まつり実行委員会が提供する野球拳おどり規定曲(平成24年に5分前後に編曲した曲等)を使用して踊ること。また、各連が過去に実行委員会の認定を受けた野球拳おどり「アレンジ曲」の使用も可能とする。
- ・部門①：連・チーム単位による投稿は5分以内に編集したものを投稿する。
- ・部門②：個人単位による投稿は1分以内に編集したものを投稿する。
- ・動画内にコメントやボード掲出等により、30秒以内の「応援メッセージ」を取り入れる。
- ・振り付けは、「野球拳らしさ」を心掛けた表現等を取り入れて踊ること。
- ・衣装は自由。ただし、公序良俗に違反しないこと。
- ・スマートフォン等で撮影し、ホームページのフォームから投稿する。(7月1日より受付予定)
- ・撮影は横向きで行うこと。
- ・対応ファイル形式はMOV、MP4、MPEG4、AVI、WMV、MPEGPS、FLV、3GPP、WebM。
- ・投稿できる1動画の最大ファイルサイズは100MB。
- ・投稿できる動画は、1動画1回のみとする。
- ・投稿動画のサムネイル画像は、動画の先頭を表示する。

3. その他

- ・他地域の踊りで使用されている鳴り物、小道具等または類似しているものは使用しないこと。
- ・公序良俗に違反しないこと。
- ・個人、企業、団体などを中傷したり、プライバシーを侵害しないこと。
- ・私有地や道路上での無許可の撮影は禁止とする。
- ・投稿された動画の著作権は松山まつり実行委員会に帰属する。また、動画の一部は、実行委員会でPR動画に編集し、本サイト上で公開する。さらに、メディアや商店街ビジョン等で公開する場合がある。
- ・本サイトについての投稿やその他トラブルに関して、実行委員会は一切責任を負わない。
- ・万一、投稿動画に関して第三者の権利の侵害が認められた場合、応募者本人がその責任を負うこととし、実行委員会は一切対応しない。
- ・不適切な動画は、投稿者に告知なく当該動画を削除し、審査対象から除外する。
- ・未成年者が投稿する場合は、保護者の同意を得た上で投稿すること。
- ・動画撮影にかかる一切の費用は投稿者の負担とする。
- ・投稿された動画について、修正等の編集作業は、実行委員会は一切行わない。
- ・投稿者の個人情報、実行委員会からの問い合わせ、入賞の連絡など、本コンテストの実施に関してのみ使用するものであり、利用目的以外に本人の同意なく個人情報を開示・公表しない。
- ・本サイト上に投稿した時点で、注意事項及び、アップロードされたファイルについての情報が本サイト並びにメディア等で公開されることに同意するものとする。

「第56回 松山まつり onWeb」 審査要領

1. 参加の区分

連・チーム部門及び個人部門とする。

2. 審査方法

部門ごとに視聴者投票を実施する。視聴者投票数が一番多い動画を選出する。
部門ごとに視聴者投票数上位20動画について、審査員による審査を実施する。
下記基準にて審査し、最高得点の動画から優勝、準優勝、優秀賞を選出する。

3. 審査基準

次の審査項目について、項目毎に採点する。(合計100点)
できるだけ点数の端数(何点まで)をつける。

No.	審査内容	得点
1	野球拳らしさ【野球拳の概念(元気を与えるようなアクション、お囃子等)】	30点
2	意気込み【熱意、練習の成果等】	30点
3	演出【表現力、躍動感、衣装等】	30点
4	投票【順位に応じて得点を按分】	10点
総合得点		100点

4. 賞の種類

賞名	
優勝	1
準優勝	1
優秀賞	1
オーディエンス賞	1

※総合得点の高い順にそれぞれ優勝、準優勝、優秀賞を決める。

※視聴者投票数が一番多い動画を、オーディエンス賞とする。(優勝等との重複を認める)

※同点の場合は、1及び2の項目を合計したもので比較する。

上記も同点の場合は、1項目から順に比較し、得点の高い方を上位とする。

5. 表彰

表彰は、後日開催の表彰式において表彰する。

野球拳について

野球拳の成り立ち

大正13年(1924)10月、高松市の屋島グラウンドが完成し、その記念として近県実業団野球大会が催された。当時、西日本に名が轟いていた強豪の伊予鉄電(現伊予鉄道)も遠征した。対戦相手は、水原茂(元巨人軍監督)らを擁する高商・高中クラグ連合。結果は、8-0で伊予鉄電野球部の完敗だった。

その夜、高松市内の旅館で懇親会が開かれ、宴席は隠し芸の競い合いとなった。芸達者揃いの高松勢の前に、またもや伊予鉄電ナインは意気消沈。そうした仲間を奮い立たすために生まれたのが、この踊り。作者は、当時の伊予鉄電野球部の前田伍健(当時は五剣)副監督であった。川柳作家でもあった伍健が『元禄花見踊』の曲をアレンジし、即興で歌を作り、別室に部員を集めて振り付けを教えた。そして、伍健の歌と三味線に合わせ、

「野球するなら こういう具合にしやしゃんせ……ランナーになったら エッサッサー アウト セーフ ヨヨイノヨイ」

全員がユニホーム姿で踊りを披露すると、大いに受け、座は盛り上がり、夜の部は伊予鉄電の大勝利となった。

昼の負けはともかく夜の勝負に勝った一行は、揚々この踊りを松山に持ち帰り、松山の料亭での「残念会」(あくまでも、野球の試合では負けていた)の場で披露した。以後、宴会芸の定番となる。



本家野球拳歌詞

作詞：前田伍健(1番)、富田狸通(2~4番) 作曲：前田伍健

<p>一 野球するなら こういう具合にしやしゃんせ 投げたら こう打って 打ったら こう受けて ランナーになったら えっさっさ アウト セーフ よよいのよい じゃんけん ポン あいこで ホイ へぼのけ へぼのけ おかわりこい</p>	<p>三 本家野球拳 こういう具合に若返ろ 投げたら こう打って 打ったら こう受けて 日本国中 えっさっさ アウト セーフ よよいのよい じゃんけん ポン あいこで ホイ へぼのけ へぼのけ おかわりこい</p>
<p>二 踊りするなら こういう具合に野球拳 投げたら こう打って 打ったら こう受けて 釈迦もエンマも えっさっさ アウト セーフ よよいのよい じゃんけん ポン あいこで ホイ へぼのけ へぼのけ おかわりこい</p>	<p>四 ホニーそうじゃけん こういう具合にやり ましよや 投げたら こう打って 打ったら こう受けて 道後のブンブにえっさっさ アウト セーフ よよいのよい じゃんけん ポン あいこで ホイ へぼのけ へぼのけ おかわりこい</p>

野球拳らしさ

審査項目にある「野球拳らしさ」とは、以下のような点です。

- 元気を与えるようなパフォーマンス、踊り、雰囲気
- 地元の伝統芸能である野球拳を踊っているという自覚
- 野球拳おどりを進化(深化)させようとする工夫 等

野球拳らしさとは、野球の所作やユニホーム等が簡単で見た目にも分かりやすいですが、それだけではありません。野球拳の発端を考えると、意気消沈したチームを鼓舞し、その場全体を盛り上げる“応援歌”として誕生したものであるといえます。

こういった経緯や歌詞等から考察すると、野球拳らしさとは上記の点が考えられ、これらの内容を総合的に判断しております(和楽器を取り入れることが望ましいです)。

また、主催者側の押しつけだけでは無く、参加者がそれぞれで考え、伝統の中にも新しいもの等も取り入れて、「野球拳らしさ」を不易流行で表現していただきたいと思っております。